

技術普及タスクの状況報告

令和7年7月28日

活動状況

- 技術多様化・普及タスク**：関連規格情報や新知見の収集・公開と取り組むべき課題の整理，また原子力土木に関わる技術力向上や社会基盤施設の安全に資する技術の講習会の企画などを行う．幹事を含み3～7名の委員で構成する．議事は公開する．
 - 2022年8月29日**：技術多様化・普及タスクの設置・運営に関する細則
- タスクメンバー**：中村晋(主査)，篠田昌弘(防衛大)，酒井俊朗(電中研)，渡辺和明(大成建設)，戸田孝史(鹿島建設)，原口龍将(三菱重工;第2回から参加)
- 第1回技術多様化・普及タスク(2023年3月10日)**:技術多様化・普及タスクの発足経緯と細則，技術多様化・普及タスクの役割の論点(議事録参照)
- 第2回技術多様化・普及タスク(2025年5月8日)**:技術文書審議体制等の見直し(報告)、技術多様化・普及タスクの役割の論点について(議事録参照)

今後の対応について

- 技術多様化・普及タスクは今月をもって終了
- **今後の方向性**：原子力分野において、検討を期待される土木の領域における課題として、例えば、高レベル廃棄物の地層処分、新型炉(SMRなど)の地盤を含む地震安全性の評価などもあり、講習会の提案などタスクの検討課題はある。
- 技術文書の審議体制の見直しという観点で提案する小委員会に技術多様化・普及タスクの機能含め、その活動を発展・継続することを幹事会(5月29日)へ提案する